

新居浜市学校給食施設整備基本計画の策定に関する 意見募集の結果について

平成30年2月20日

新居浜市教育委員会事務局学校給食課

1 意見募集期間 平成29年12月11日(月)～平成30年1月12日(金)

2 意見提出人数 個人 126人 団体 3団体

3 意見提出件数 135件

4 意見の概要と意見に対する考え方

番号	提出された意見の概要	人数	意見に対する考え方
第1章 新居浜市の学校給食施設の現状			
意見なし			
第2章 学校給食施設整備の基本方針			
(1)「新居浜市学校給食検討委員会」による調査研究の結果について			
1	食中毒や異物の混入など、規模が大きくなるほど、そのリスクも大きくなるのではないか。	4	平成25年度の新居浜市学校給食検討委員会におきまして、自校方式、センター方式それぞれのメリット、デメリットを整理し、その結果を基本計画の5ページに記載しております。 ご意見の通り、センター方式のデメリットとして、食中毒発生時の被害規模が大きいこと、配送時の事故のリスクもあること等がございますが、他方、衛生管理の一元化により食中毒発生のリスクが少ないこと、火災・災害時等に児童・生徒に危険が及ばないことなどが挙げられております。 いずれの方式でも、それぞれメリットとデメリットがございますが、総合的に判断する必要があり、学校給食検討委員会では、早期にかつ公平に「学校給食の安全・安心」を確保するという観点から、センター方式により整備することが適当であるとの結論となっております。
2	センター方式は子供たちにメリットはないと思う。	2	
3	一か所で何千食も作るのはいろいろな面で目が充分行き届かなくてリスクが多いような気がする。例えば、食中毒、故障、配送他不測の事態がないとは言いきれない。大規模設備の場合、被害が大きい。	1	
4	食中毒が発生した場合の被害は、センター方式だと全市に広がるが、自校方式の場合は被害も少なく、原因への対応も早くなると思う。	1	
5	食中毒など衛生面からも自校方式にすべきだと思う。	1	

6	<p>自校方式のメリットは、</p> <p>①給食時の(ふれあい) 食の教育がじかにできる。</p> <p>②万一食中毒になると一校のみで早く手をうつことができる。</p> <p>③きめ細かなアレルギー対策ができる。</p> <p>④防災時炊き出しができる。</p> <p>⑤地産地消ができる。</p> <p>である。自校方式を守ってほしい。</p>	1	<p>学校給食検討委員会で整理していただいた自校方式のメリットは、基本計画5ページに記載しており、調理従事者と児童とのコミュニケーションが図れること、食中毒発生時の規模は限定であることは、ご意見の通りでございます。</p> <p>ご意見にございますアレルギー対策、防災対策、地産地消につきましては、どちらの方式においても取り組むべきことであり、優劣はないと考えており、センター方式におきましても、施設整備、給食運営を行う上で優先すべきこととして、取り組んでまいります。</p>
7	<p>誰が何の目的のために集約しようとしているか説明するべき。発案者の個人名を公表して下さい。決定には必ず責任が伴う。</p>	1	<p>学校給食検討委員会の委員名簿は、検討委員会の会議録も含め、市のホームページにおいて、公表いたしております。</p>
8	<p>検討委員会を傍聴したが、最終回でセンターに変わった。裏で何かあったのではないか。</p>	1	<p>学校給食検討委員会では、現場の先生方や保護者の皆様のご意見を給食施設の整備計画に反映するため、小・中学校長、栄養教職員及び調理員、PTAの代表者の方にも委員として参加していただき、検討課題をそれぞれの組織内に持ち帰って幅広く協議をしていただきました。</p> <p>その結果、最終回(第6回)で出された結論は、第1回から第5回会議までの議論を踏まえ、早期に、かつ公平に「学校給食の安全・安心」を確保するという観点から、総合的に御判断いただいた結果であると考えております。</p>
9	<p>当事者である保護者、子どもたちを全く無視しています。計画を作成する時点で、保護者にもっと説明したり、アンケートも役員だけでなく、もっと広く実施すべきと思います。</p>	1	<p>給食施設の整備方式の検討については、それぞれのメリットとデメリットを踏まえ、子供たちのために何がベターか、総合的な判断が求められます。</p> <p>そこで、現場の先生方や保護者の皆様のご意見を計画策定に反映するため、平成25年度の学校給食検討委員会では、小・中学校長、栄養教職員及び調理員、PTAの代表者の方にも委員として参加していただき、検討課題をそれぞれの組織内に持ち帰って幅広く協議をしていただきました。その結果、最終的に、子供たちのために早期に整備を行い、安全・安心な給食を提供するには、センター方式により整備することが適当、との結論となったものと認識いたしております。</p> <p>今後も、これまでと同様に、現場の先生方や保護者の皆さんと連携を図りながら、事業を進めてまいります。</p>
(2) 学校給食施設整備の基本方針(本計画策定において重視すべき目標)			
意見なし			

第3章 学校給食施設整備の基本方針の達成可能性

(1) 学校給食衛生管理基準の遵守と管理運営について

意見なし

(2) 「食育」の推進について

10	学校の中に栄養士が配置されない場合、これまでの食育や栄養指導が希薄になっていくのではないか。	2	基本計画の11ページに記載していますが、食育の推進には学校栄養教職員が大きな役割を担っており、センター方式で、自校方式と同様に「食育」の推進を図るためには、各共同調理場の県配置の栄養教職員が対象校を巡回指導できる体制づくりが必要となると考えております。 そのためには、現在と同様に市費で栄養士を雇用し、各センターに配置して、県配置の栄養教職員の補佐を行うとともに、主として調理場内で衛生管理や物資管理等を担うことで県配置の栄養教職員による対象校の巡回指導が可能となると考えます。
11	栄養指導・教育が根付いてきているのに、各校に栄養士がいなくなるとは困る。	4	
12	成長過程にある子供達なので、センターであっても栄養士は必ず必要。	1	

13	各校に栄養士・調理員さんがいてこそ食育が行えます。自校給食を続けてほしい。	3	<p>食育は、成長期にある児童生徒の、食に関する正しい理解と適切な判断力を養うため、正しい食習慣を身につけてもらうための指導です。</p> <p>このような食育の推進のためには、調理従事者とのふれあいも大事ですが、学校栄養教職員が教室掲示資料、教師用指導資料やその日の献立にあった放送掲示資料を作成して担任等が指導を行ったり、授業による指導のほか、毎月食育だよりを家庭に配布する等保護者とも連携を図る等、センター方式であっても様々な取組みを行うことが、求められております。</p> <p>このようなことから、食育の推進のために最も重要な点として、各センターの県配置の栄養教職員が、対象校を巡回指導できるよう市費栄養士の確保に努め、食育が提供できる体制づくりを行うこととしております。</p> <p>また、食育については給食のみで行うものではなく、家庭や地域等を含め、様々な学習の場において行われるものと考えております。</p>
14	自校方式を続けてほしい。栄養士さんや調理員さんを身近で感じることで、感謝の気持ちや食育を学ぶことができると思う。	2	
15	栄養士を増やすので「子どもたちとのふれあい」や「食育はできる」とありましたが、学校に調理員さんがいて、栄養士さんがいて、自分たちの給食を作ってくれている人たちを子どもたちが認識して「食育」をしていくことと、ビデオでは全然違うと思う。	1	
16	食を通して人間は成長しく。作る人が見えるからこそ感謝の気持ちも育つ。センター方式にはしないほしい。	3	
17	作ってくれる人の顔を身近に感じ、給食の時間が近づくにつれ美味しい香りを感じ、出来たての温もりを感じる。それこそが自校式のみ実現できる、真の食育であると思う。	2	
18	調理する過程を生活の中で子どもたちに感じてほしい。子どもたちの育ちにおいても大切な給食を自校給食でお願いしたい。	1	
19	児童の食育には、日々、食べ物のおいしさや作っている人の様子がわかることがとても大切だと思う。そのために、自校方式の方がよい。	3	
20	給食室から毎日、おいしい香りが漂うのは、子どもたちにとって、体にも心にも大切なことである。自校給食を続けてほしい。	1	
21	自校給食は、調理室から給食のにおいがし、生徒に給食を知らせる。熱いものが食べられ子どもたちも喜びとなる。まさに教育の一環である。	1	
22	センター方式では、望ましい食育は行えないのではないか。	3	
23	食育は大切なため、自校方式を守ってほしい。	1	
24	運ばれてきた給食では得られない教育的配慮が自校方式では可能な事が多々あると思う。	1	
25	学校給食で豊かな教育、人間育成の一助としてほしい。	1	
26	旬なものを手作りで調理している自校給食を続けてほしい。	1	

(3)アレルギー対策について			
27	きめ細かいアレルギー対応のために、自校給食を続けてほしい。	10	基本計画の11ページに記載しているとおり、本市は、現在、「新居浜市の学校における食物アレルギー対応マニュアル」に基づいて、小学校、学校給食センターともに統一した対応をしていますので、自校方式、センター方式で対応に違いはございません。小学校給食がセンター方式となりましても、学校と連携を図りながら、児童生徒がより安全に、楽しく学校生活を過ごせるよう努めてまいります。
28	センター方式では、アレルギー対応に心配がある。	3	
29	自校方式のきめ細かいアレルギー対応には感謝している。	2	
30	各校に栄養士・調理員さんがいてこそアレルギー対応が行える。自校給食を続けてほしい。	2	
31	子供が卵、ソバ、カニ等のアレルギー体質だったので、栄養士さんに相談したらいち早く対応してくださり、感謝している。9年間心配することなく、栄養士さん、調理員さんと話し合うことができた。これも自校方式だからできたのではないか。	1	
32	アレルギー対応は自校給食が良いのではないか？	1	
33	複雑化し、生命にもかかわるアレルギー対策が、きめ細かくできるのか。	1	
34	アレルギー対応が煩雑になるのではないか。	1	
35	センターにする場合、アレルギー対応等のためにも1センターに最低3人以上は正規の栄養士が必要ではないか。非正規だと責任感も薄れると思う。	1	

(4)地産地消の推進について			
36	自校給食は地域で育った野菜、地域の人達との接する暖かさ等々、情操教育も含めメリットがたくさんある。ぜひ、自校給食を続けさせて頂きたい。	2	<p>学校給食に地場産物を使用し、生きた教材として活用することは、地域の自然や文化、産業等に関する理解を深め、生産者の努力や、食に関する感謝の念をはぐくむ上で重要であると考えております。</p> <p>現在、給食の食材は、小学校と学校給食センターとは、基本的に同じ食材を同じ業者に発注し、共同で作成した献立で給食を提供しております。また、できる限り国産品の使用を心がけるとともに、中でも新居浜産の使用割合の増加を目指しているほか、添加物の多い加工食品を使わない等、食の安全の確保も図っておりますので、小学校がセンター方式となりましても、対応に差はございません。</p> <p>なお、基本計画12ページにも記載していますが、食育の推進のためにも、食材を届けていただいている農家の方々へ感謝の気持ちをお伝えすることは、大変重要なことであるため、引き続き、児童・生徒に対する周知や、市のホームページや市政だより等による広報を行う必要があると考えております。</p>
37	自校給食を残して下さい。地域の特色を生かした食事を与えることが、子供にとって故郷への思いも残っていくと思う。	1	
38	旬なものを手作りで調理している自校給食を続けてほしい。	1	
39	地産地消で安心安全な農作物を子供の側で調理するためにも自校方式を続けてほしい。	1	
40	小学校では地域の方が作った野菜を使って栄養士の方が工夫された献立であった。センターにしないで自校方式をぜひ続けてほしい。	1	
41	各校に栄養士・調理員さんがいてこそ地産地消が行える。自校給食を続けてほしい。	1	
42	地産地消も広がっていけば、野菜を作る農家の人も子供達が食べてくれると思えば励みにもなるため、自校給食を続けてほしい。	1	
43	センター方式で、地産地消、農家の人達とのふれあいはできるのか。	1	
44	地産地消の給食の提供をお願いしたい。	1	
45	地域で取れた食材、地域のおじちゃん、おばちゃんの顔や愛情のこもった手作りの品々は、きっと子供達の素晴らしい思い出になるのではないか。	1	
46	野菜は現地調達、契約農家を募集し地産地消を図ってほしい。また、外国の食材をできる限り使用しないでほしい。	1	
47	地域のためにも給食室を作りなおしてほしい。地域の小売店も売り上げが減り大変。	1	

(5) 特別給食への対応について			
48	バイキング給食、マナー給食、お誕生日給食について対応できるのか。	5	<p>学校給食検討委員会から、「バイキング給食」「マナー給食」「交流給食」等の自校方式で取り入れられている特別給食に対応するよう要望をいただいておりますので、センター方式になりましても、「お誕生日給食」も含め、特別給食は継続いたします。また、授業などで児童たちが作った米、野菜などを、その学校のバイキング給食などで使うことも可能であると考えております。</p> <p>そのため、基本計画12ページに掲載しているとおり、特別給食を調理する専用調理室を1箇所整備するほか、栄養士による食育指導ができるよう、適正な栄養教職員の配置に努めてまいります。</p>
49	子供達にとってお誕生日給食は期待と楽しみであり、大人になっても良い思い出、良い経験となる。また、皆んなで楽しく祝うことが子供達に輪になる。	4	
50	季節ごとのバイキング給食は、子どもたちの楽しみでもある。その楽しみを奪わないで。自校方式だからこそできると思う。	4	
51	小学校には、バイキング給食、お誕生日給食など楽しい催事があった。イベント事の給食を子供たちは楽しみにしている。自校給食が子供たちの食育だけでなく絆づくりにも大きな役割を果たしていることを忘れないでほしい。	3	
52	メニューも児童生徒が選べるようにできないか、もっと教育に市費をさいて欲しい。	1	
53	お誕生日給食、交流給食などとても楽しみにしていて、子供達もいつも以上に食べている。	1	
54	学校菜園で子どもの作ったものが利用されるのか。	1	
55	4年生はみかん狩りに行き、そのみかんを給食で食べている。みんなでそら豆をむいたり、栄養士の方が給食についてお話ししてくれたりしている。これからも続けてほしい。	1	
56	1年生保護者対象の試食会を行うことにより、センター方式についても理解が深まるのではないのか。	1	基本計画13ページ末尾に、「なお、小学1年生保護者等を対象とした試食会を実施することにより、保護者の給食に対する理解が深まると思われる。」を追加します。

(6) 適温かつ調理後2時間以内の給食について			
57	子どもたちに、できたての温かくておいしい給食を食べさせるためにも、自校給食を守ってほしい。	21	センター方式の場合、配送時間が必要となりますが、現在、学校給食センターでは、保温性に優れた食缶(クラスごと)の使用、温かいものと冷たいものを別のコンテナに入れて配送するなどの工夫を行い、適温での給食の提供に努めております。 また、平成27年度に実施した全生徒を対象したアンケートでも、給食を学校給食センターの受配校では、給食を「おいしい」と思っている生徒が72.4%、「おいしくない」が3.5%で、「おいしい」が「おいしくない」を68.9%上回る結果となっており、適温でおいしい給食の提供は、可能であると考えております。
58	子どもたちは、毎日、あたたかい給食を楽しみにしている。温かい物は温かいうちに食べさせてやれるのは、自校給食だからこそできることだと思う。	8	
59	センター方式では、温かい給食は望めない。配送時間の差で冷たい給食になるのでは。	1	
60	温かいものは温かく、冷たいものは冷たく子供達に提供する自校方式は、食教育の面からも続けていくべきと思う。	1	
61	冷めたもの、油もの・揚げ物が多い、弁当方式(センター方式)は、子どもたちに食の喜び、うれしさ、楽しさをうばうものである。テレビで放映されていたが、給食の食べ残しの大部分がセンター方式とされていた。	1	
62	できたてを食べられることがうれしかったので、それを残してほしいが、市内3か所のセンターに分けるのであれば、それも可能だと思っている。	1	

(7)整備に必要な期間について			
意見なし			
(8)「児童と調理従事者とのふれあい」の方法について			
63	食事を作っている調理員さんの働く姿を見せるのも、勉強の一つである。作った人の顔が見える自校方式が一番である。	3	<p>早期に「学校給食の安全・安心」を確保するため、センター方式により整備することが適当であると判断いたしました。児童と調理従事者とのふれあいについては自校方式に優位性がありますので、学校給食検討委員会からも、「できる限り取り入れることができるよう努めてもらいたい」との付帯意見をいただいております。</p> <p>現在、学校給食センターにおいても、DVDを作成して生徒に見てもらい、その後生徒から感謝の気持ちが届き、それに対して調理員からもお礼の手紙を返すなど、交流しております。</p> <p>そこで、小学校がセンター方式になりましても、基本計画16ページに掲載しているとおり、DVDや毎月配布している「給食だより」の活用、児童のセンター訪問、調理従事者の学校訪問等を計画、実施し、できる限り児童と調理従事者とがふれあえる機会をつくりたいと考えております。</p>
64	自校方式だと、調理員さんと直接ふれあえて、言葉を交わしたり感謝の気持ちを伝えたりできる。自校方式を残すべき。	1	
65	地元の方が働き、子どもたちが目にする。そしてふれあいの中で感謝の念が生まれる。自校方式の存続を望む。	1	
66	給食のおばちゃん達が自校給食で作ってくれる姿を子供達も身近に見ることができ、感謝の気持ちも出来る。センターにせず、今ある施設を利用して心のこもった自校給食を食べさせばよいと思う。	1	
67	身近に給食の先生たちを目にする機会がなくなるということは、今まで以上に、食の重要性や感謝の心を植え付ける授業が大切になってくると思う。顔の見える給食づくりを何かの形で残してほしい。	1	
68	「おばちゃんありがとう」と調理員にお礼を言う温かいムードで給食を楽しんだ子供達の姿、自校方式ならではの情景である。	1	
69	作る人(調理員)も食べてくれる子供達の顔が見られ、ありがとうの声に励まされているのではないかな。	1	
70	自校方式で調理員さんと生徒が交流し理解し合いながらの食事方法が最適と思う。自校方式を続けて下さい。	1	
71	学校給食の「食育」にとって大切な、人とひとのふれあいの場が保障されるのか。	1	
72	自分の知っている調理員さんに作っていただいていることで、子供達は安心しておいしい給食を食べることができるのだと思う。歴史ある自校給食をぜひ続けて下さい。	1	
73	センター方式になると、よそでお弁当をかうのと同じで人のあたたかみに欠けてくるのではないのでしょうか。	1	
74	センター方式でも、児童に、給食を作る場を見学させてほしい。	1	
75	給食に携わっている方が各学校を訪問し、食事の様子、又意見を聞く場を設けてほしい。	1	
76	学校から調理員がいなくなるのは、毎日のふれあいがなくなりとてもさみしい。	1	

(9) 災害時に対応できる施設整備について			
77	学校に給食室があることで、災害発生時にも使用できる。センターにせず今ある施設を使用すればよい。	3	給食施設の調理機器は、公民館等の調理室に設置している一般的な調理機器と違い、多量かつ短時間での調理を目的とした業務用であるため、取り扱いが難しいものが多く、現実的には、災害時に炊き出し等で利用することは難しいと考えています。 なお、学校給食検討委員会からは、「防災機能や食料備蓄機能を持たせることにより、災害にも対応できる施設ができればより良いものになると思う」との付帯意見をいただいていますので、基本計画16ページでは、独立した稼働電源装置(自家発電装置など)、通常の必要量以上の水を確保できる貯水タンク(受水槽)、精米など常温で長期保存可能な食材を数日分保有可能な備蓄倉庫等の整備が必要としております。
78	災害時に備えるためにも、自校給食を続けてほしい。	3	
79	大地震が起こり被災地となったら、自校給食が多くの人々の命を救うことができるはず。自校給食を残すべき。	1	
80	南海地震が心配されており、避難所である学校の調理施設は、地元の人にとって安心ではないか。	1	
81	地域に災害がおきても、生きるために各校に給食室があってほしい。	1	
82	センターの方が短期間で整備でき、財政負担も軽減されるという意見もあるが、目先の損得にとらわれず、災害時にも対応できる施設として、時間とお金をかけて自校方式を残してほしい。	1	
(10) 財政負担について			
83	コスト面のことをいろいろ言われている声が聞こえてくるが、土地、建物、設備の資金調達は、税金なのか。	1	財源は、国庫補助事業もありますが、ほとんどは新居浜市の負担となります。 参考までに、現在の学校給食センターは、用地取得費、擁壁造成費、建設費を含めて約11億円を要しましたが、国庫補助金は、約1億2千万円でございます。
84	現在はいないが、センターにはパートの調理員をまとめる正規調理員が必要なため、1か所に2名以上配置してほしい。	1	調理員につきましては、現学校給食センターでは臨時・非常勤調理員のみでの配置でございますが、多くの調理員を束ね、指導する等の役割を担う正規調理員の配置は必要と考えており、各センターに2名配置する計画といたしております。
85	現在ある給食室は、保存していただきたい。	1	現在の各小学校の給食室の一部は、センターから給食を届け、クラスごとに仕分けをする場所(配膳室)として利用する計画でございます。

第4章 学校給食施設の整備計画

(1) 整備方式について

86	財政的な判断でセンター化の提案をしているのではないか。コスト優先の教育行政ではないか。	4	<p>センター方式を選択した第一の理由は、可能な限り早く整備を行い、安全・安心な給食を子供たちに提供するためでございます。決してコスト優先ではなく、子供たちのために総合的に判断したものでございます。</p> <p>なお、財政負担が軽減されることにより、給食施設以外の学校施設や教育環境の整備を図ることも可能となります。</p> <p>今後も、子供たちの将来に向けて、何が最重要の課題であるのかを真剣に考え、その解決に取り組んでまいります。</p>	
87	経費の節減は大切だが、必要とされるものについては使う必要がある。	1		
88	コストファーストではなく、子どもファーストで、子どもにとってベストの自校給食を残すことが大人の責任である。	1		
89	センター方式は、経済的に得る益より、子供の心や身体に与える不利益の方が大きい。目先の損得で本質を見失っては教育行政失格。	1		
90	子ども達がたのしみに行っている給食なので、自校給食を守ってほしい。	1		
91	子どもたちにとって何が良いかをじっくり考え、新居浜の誇りともいえる自校方式の給食を残してほしい。	1		
92	子供を大切にするのであれば、自校給食を続けるべきである。	1		
93	新居浜市を担う子ども達のため、自校給食を続けてほしい。	1		
94	子どものことを最優先に考え、安心安全な自校方式の給食にしてほしい。	1		
95	生産性と効率のためにセンター方式にしたのではないか。	1		
96	ただよってくる給食のいい香りなど、教育的な効果は、効率でははかれないように思います。	1		
				給食施設は、子どもに安全・安心な給食を提供するための施設でございますので、生産性と効率のみを判断して、センター方式を選択したのではございません。あらゆる面から、総合的かつ慎重に検討し、判断いたしました。

97	コスト面や管理のしやすさなどを考えるとセンター方式が良いと思うが、次の理由で自校方式を守ってほしい。 ①温かく出来たての給食が一番だと思う。 ②近くに顔を知ってる給食のおばさんがいることで、食育にもつながると思う。 ③自校方式の方がアレルギー対策、季節のイベント給食、一生懸命給食を作る姿など子どもの教育的には良い面がたくさんあると思う。	1	基本計画6ページでは、学校給食施設整備の基本方針(計画策定において重視すべき事項)を10項目定め、センター方式、自校方式それぞれについて、各目標が達成可能かどうか、検証いたしました。 その結果、センター方式においても、食育の推進、アレルギー対策、地産地消、特別給食の対応、適温かつ2時間以内の給食、児童と調理従事者とのふれあい等について達成可能と判断しております。	
98	子どもたちにとって、食育もアレルギーに関しても大切である。せつかくある設備をそのまま大切にして、自校方式で続けてほしい。	1		
99	多くの人が自校方式を望んでいる。センターありきで進める計画には納得できません。アレルギー対応、食育、地産地消、防災の面からも、ぜひ自校方式をお願いします。	1		
100	今ある自校方式の学校給食を守り、子どもたちに温かい食事を、安全な食物、心のこもった給食で、心も身体も健全に育ててもらいたい。	1		
101	自校方式は、栄養士を中心としたきめ細かな栄養指導を始め、アレルギー対応や特別給食の実施、作ってくれる人達との交流ができ、子供達を心豊かに育てることができる。	3		
102	大人も子供も一番大切なものは命であり、健康な体と精神である。色々考えると自校方式の方が良いのではないか。	1		可能な限り早期に、学校給食衛生管理基準に適合した施設を整備し、子供たちに安全・安心な給食を提供することが、子供たちの健康を守るためにも必要だと判断いたしました。
103	子どもや孫の健康を守るため、自校方式を続けてほしい。	1		
104	学校行事に合わせた給食体制や内容など、細やかな対応が受けられるのも自校給食だからだと思う。	1		
105	校時変更の対応がきめ細やかにできなくなるのではないか。	1		
106	センター方式では、配送時間の融通がきかず(他校と変更希望が重なることが多い)保護者にも理解が得られにくい。	1		
107	天候による臨時休校や学校による代休への対応は確実にできるのか。弁当対応等になると保護者からのクレームが増えるのは間違いない。	1		
108	校時変更の対応は難しく、そうした場合、給食カットになると思うが、それだと授業時間の確保が難しくなる。	1		
109	センター方式で、子供達の好みメニュー、味付け等の聞き取り、アンケート等細かな配慮ができるのか。	1		
110	職員減の中、センター方式では、さらに給食関係の先生がいなくなり、様々な面で他の教員にさらに負担がかかる。	1	現在、学校給食センターでは、中学生を対象に2年ごとにアンケートを実施しています。小学校がセンター方式になりましても、同様な方法で子供達の意見を聞くことは可能と考えています。	
			現在、学校給食センターからの配送校には、2名～3名の配膳員を配置していますので、小学校にも同様に配置が必要と考えています。その他の点につきましては、今後、小学校と十分協議してまいります。	

111	センター方式に変更することは、施設投資および運営費用を考えると仕方がないことと考える。	2	<p>貴重なご意見、ありがとうございました。市といたしましても、総合的に判断し、センター方式により整備するという方針を提案させていただきます。今後とも、ご助言をよろしく願いいたします。</p>
112	少子化もこの先進んでいくと思われるので、学校統合も考えられるし、センター方式にしておくのがいいと思う。	2	
113	少子化により、自校方式ではせつかく整備しても無駄になる可能性もある。センター方式に賛成である。	1	
114	私の住んでいる町も年々児童が少なくなっている。このような状況下で自校給食をセンター化するのもやむを得ないことだと考える。	1	
115	各学校で学校給食衛生管理基準を満たす実をつくるのは難しいと思うので、基準に適合する施設としてセンターをつくるのには賛成である。	1	
116	自校方式は経済的にも衛生管理上においても効率が悪いと思う。できるだけ短い時間で配達できる場所にセンターを整備するのが効率的。中学校の給食の評判を聞いてみるとすこぶる良い。	1	

(2) 共同調理場(センター)の設置数及び配送校について			
117	<p>センター3箇所での運用となると、1箇所当たりの想定食数(3200~3400食)から、冷凍食品の割合が現在よりも多くなる恐れがあり、食育や地産池消に対し、現在よりも悪い影響が出てくるのではないかと？</p> <p>共同調理場をもう1箇所増やすことで冷凍食品の割合を現在よりも少なくし、給食環境を改善していただくことを望む。</p> <p>共同調理場での運用メリットは理解し賛同するが、3箇所ではなく4箇所での運用を切に望む。</p>	1	<p>現在の学校給食センターは、約3,200食を調理し、アンケートでも、多くの生徒さんから「給食がおいしい」との回答をいただいておりますことから、現学校給食センターの規模を基準にいたしました。</p> <p>なお、学校給食検討委員会では、当時の児童・生徒数を基準に食数を試算し、4施設体制としておりましたが、その後、国立社会保障・人口問題研究所による将来の人口推計が出され、推計値に基づいて想定食数を試算した結果、3施設で効率的な対応が可能と判断したものでございます。</p>
118	<p>将来少子化が予想される。大規模センターも縮小しなければならないこともありうる。その時はどうするのか。</p>	1	<p>ご意見のとおり、将来の少子化を踏まえ、3施設体制とさせていただきます。配送校までの時間距離を勘案して配置することとしており、現時点では、食数が減っても統廃合は難しいと考えております。</p>
119	<p>大生院は親子方式を続けてください。新居浜市内からちょっと離れているし、敷地も充分あります。「給食甲子園」でも優秀賞を受賞した経験があると聞きました。いままでのいいものは残してほしいです。</p>	1	<p>大生院小中学校へは、現在の学校給食センターからの配送を計画いたしました。20分以内の配送が可能で、適温かつ2時間以内の給食対応は可能と判断しております。</p> <p>現在も、市内共通献立で調理していますので、内容に大きな差は生じないと考えます。センター方式になりましても、おいしい給食を児童生徒に提供いたしますので、ご理解をお願いいたします。</p>
120	<p>大生院は親子方式を継続することを希望します。よい歴史は続けたらと思います。</p>	1	
(3) 事業スケジュールについて			
121	<p>学校給食衛生管理基準に適合した施設として、給食センターをできるだけ早く作ってほしい。</p>	1	<p>ご意見のとおり、できる限り早期に新調理場からの配食が行えるようにすることは、子供たちのために必要と考えます。</p> <p>そこで、現在公表している基本計画22ページでは、新たに2つの共同調理場を整備することとし、1施設目は5年目、2施設目は7年目の供用開始としておりますが、基本設計と実施設計を同一年度で行い、それぞれ、1年早めたスケジュールに変更いたします。</p>
(4) 新たな共同調理場(センター)の用地選定について			
意見なし			
(5) 中学校給食の完全実施について			
122	<p>中学校の選択制は、ほとんどの子が給食を取るのに、マークシートを毎月書いて出すことは大変だし、無駄だと思う。</p>	1	<p>栄養計算がなされた給食を全員が食べてもらいたいという想いや、毎月のマークシートのやり取りなど、非効率的な実態があり、完全実施の方向性を示させていただきました。</p> <p>しかし、ご意見のとおり、未納等の課題もありますので、基本計画23ページの末尾を、「中学校給食について選択制から完全実施への移行を検討する。」に修正し、今後、中学校と十分協議を行いたいと考えております。</p>
123	<p>中学校は選択制だから未納者がいないと聞く。わずかでもお弁当を選択している者がいるのであれば、基本は全員給食としてもいいが、例外的に選択制も認めてはどうか。</p>	1	
124	<p>家庭では栄養学的にも偏りがちだと思う。給食は、同じ料理を配膳係になったり、楽しく食事ができると思う。</p>	1	

その他のご意見			
125	滞納者への対応はどうなるのか。	2	現時点では、小学校給食費の徴収方法について変更する計画はございません。
126	給食費滞納が多い世帯へはどう対応するのか。中学校のような前納制は、小学校では児童がかわいそうである。	1	滞納者への対応については、現在、「支払督促」「強制執行」等の法的措置を含め、滞納がないよう努めております。
127	中学校のように前納制の集金方法を取った場合、未納の子ども達への対応はどうなるのか。	1	
128	センター方式が採用されたら、やがて民間委託になるのではとの不安がある。新居浜市が責任を持つ直営は、これからも続けていただきたい。	1	新センターは公設公営で設置、運営を行う計画であり、現時点で、民間委託の予定はございません。
129	将来的に民間業者への委託となって、ニュースにもなった様な給食にならないかと不安である。	1	しかしながら、給食施設は、センター方式、自校方式を問わず、民間のアイデアを取り入れている事例が多くみられます。また、献立作成、食材の検収は直営としながら、調理業務等の委託を実施している例もあり、今後も、様々な情報の収集を行ってまいります。
130	3センター体制を考えているようだが、民間企業に分散して委託する方法も考えられる。複数の企業に委託することで、競争原理が働くこと及び食中毒などのリスクを分散させることができる。民間のアイデアを積極的に取り入れ、食は楽しむものであることを学んでもらう必要があると考える。案の一つとして将来は導入できるように検討願いたい。児童生徒数の増減や食材の多様化など、予想のつかないことも数多くあると思われる。柔軟に対応できる方法を考慮しておいてもらいたい。情報の収集も行ってもらい、課題をあげてよりよいものを提供できるように考えてもらいたい。	1	
131	現学校給食センターでは、老朽化によりプラスチック片の混入などの事故があったので、現在の基準に合わせた、働く人にも負担が少ない、使いやすい機械の導入をお願いしたい。	1	導入する調理機器の選定などは、本計画が承認されてから、先進地などを参考にしながら進めてまいりたいと考えております。その際、ご意見にありますとおり、調理員の負担軽減、職場環境にも配慮してまいります。
132	パブリック・コメントは何のためにするのか。既に決まった方針は変えないのではないのか。意見をぜひ聞いてほしい。	1	パブリックコメントは、市の意思形成過程における公正の確保、及び透明性の向上を図るための制度でございます。今回、提出された市民のご意見に対して、十分考慮し、市の考え方をお示しさせていただきましたが、原案に修正が必要と判断した点もございました。多くの皆様から貴重なご意見を提出いただき、改めて感謝を申し上げます。
133	学校給食を廃止する理由を知りたい。義務教育の小中学校の給食費用は税金で賄うべき。廃止する計画に至る意味が理解できない。	1	学校給食を廃止する計画ではなく、新たな給食施設を2施設整備して、現在の学校給食センターと併せ、3施設で市内の小中学校全校の給食を調理するという提案をさせていただきます。

134	<p>昔に比べて格段においしくなり、メニューも豊富で温かいご飯が食べられることにいつも感謝している。出汁も一番だしを使っているのが本当においしい。ただ、絞るかすは使っていないとのことなので、食材を使い切るという点で、ふりかけにするとか、活用していただきたいと思う。</p>	1	<p>貴重なご意見として、今後の参考とさせていただきます。</p>
135	<p>夏は子供が学校で熱中症になりそうで勉強に集中できない。エアコンの整備の方が先だ。トイレもケチらないでほしい。</p>	1	